佐賀大学教育学部附属小学校　学校だより　第２１号

ふれあいⅡ

学校教育目標
「やさしく　かしこく　たくましく
自分のよさを生かして
未来を創ろうとするしゃちっ子」
の育成

令和8年3月13日 校長 重松 景二

愛でいっぱい、学びでいっぱい、遊びでいっぱいの学校にする

アップデートしよう（未来を創るのは子どもたち）

巣立ちの日　おめでとう…

朝晩はまだ寒い日がありますが、日中はずいぶん暖かくなってきました。今週は卒業証書授与式をはじめ、お別れ式、６年生修了式など、巣立ちに関わる行事が続きました。一日一日と過ぎていく中で、寂しい気持ちが少しずつ高まっていくような一週間でした。

火曜日には、６年生と教職員とのお別れ球技会がありました。ぽかぽか陽気の下、ドッジボールをして楽しみました。６年生の速いボールにドキドキしながらの対戦でした。当てたり当てられたりの攻防が続きました。結果は、大人げない先生チームの優勝となりました。まだまだ負けていられませんね。水曜日には、まず６年生の修了式がありました。修了式では、どんな自分も受け入れ、どんな自分も大切にしてほしいという話をしました。その後、１・２・３年生とのお別れ式がありました。短い時間でしたが、涙の別れもありました。６年生にお世話になったという気持ちがあふれる、温かなお別れ式となりました。

しみじみ思う　いい卒業式でした…

６年生にとって、小学校での最後の学びの場であり、成長の披露の場でもある卒業証書授与式を挙行しました。伝統ある附属小学校の第 134 回の卒業式でしたが、タイトルにあるように「いい卒業式」でした。

緊張感のある張り詰めた空気の中に入場してきた６年生の表情は、６年間の成長をぎゅっと凝縮した、凛としたものでした。卒業証書授与では、一人一人がしっかりと返事をしていました。証書を渡す際に、そっと「おめでとう」と声をかけると、どの子もよい表情で受け取っていました。「ありがとうございます」と小さくつぶやく子もいれば、にっこりと微笑む子もいました。一人一人の思いを想像しながら渡す卒業証書には、「がんばれよ」というメッセージも込められています。

今年度は、送辞・答辞も壇上からのメッセージとしました。新旧児童会長の堂々とした態度から発せられた言葉は、まるで生きているかのように聞き手の心に届き、心の奥まで深く響いたことでしょう。附属小学校らしい送辞・答辞であったと感じました。送る側、送られる側の双方が、新たな第一歩を踏み出したに違いありません。

合唱もとても素晴らしいものでした。伝統的に歌い継がれてきた「仰げば尊し」「蛍の光」「校歌」は、卒業生、在校生、保護者、教職員が一体となって歌うことで体育館に響き渡り、別れの気持ちをいっそう高めてくれました。そして今年は、卒業生が退場前に「正解」を合唱しました。美しいハーモニーと、歌詞に込められたメッセージが、聞き手の心にしっかりと伝わるものでした。この歌を聴いて、思わず涙がこぼれたという方も多かったようです。

今日でお別れというのは寂しいものですが、新たな世界へ羽ばたいていく子どもたちを見送るというのは、すがすがしい気持ちでもあります。新たな世界での活躍を心から楽しみにしています。